

第 21 号

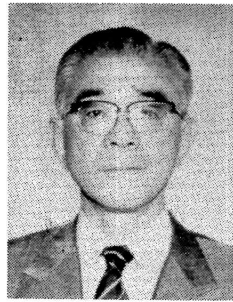
国立市富士見台1-1-201

村田 亘 75-2020

印刷

真美巧芸 37-2536

エールを送ろう!! ―― 母校の二世紀



中央大学学員会国立支部

副支部長 能味 寿哉

去る三月十六日、中大駿河台記念館において、大きな会合が開かれた。それは、二世紀に向けてはばたく母校のさらなる充実発展を期し、「中央大学教育・研究振興資金」募金のための第一回懇談会であった。大学理事長から委嘱を受けた募金委員が、北から南からと頼もしい顔触れをそろえたが、当支部からは私と風間幹事長の二人が出席、このほか常任委員として市橋千鶴子先生も見えられた。(村田支部長は体調すぐれずご欠席)。山本清二郎理事長は、百周年の募金がおわたったところで重ねてのお願いは心苦し

いがと心情を吐露しつつ、わが中大が名誉ある伝統を維持高揚していくためには、通常の入学金、授業料等の学生納付金ではまかない切れない教育研究の現状打開と、必ずしもそうゆう原資に依存することとがふさわしくないスポーツ振興とかの対応策を講ずることが焦眉の急であるとの認識を示された。また、川添利幸学長からは、教学側を代表して出席者一同に謝意を表されるところともに、最近における科学技術の多様化、国際化に直面して学問の自助努力には限度があることを説かれ、当面国際交流の拡大とスポーツ分野の強化を軸に、積極的に取り組んでいきたいとの訴えがあった。国際交流は、既に海外十三大学と提携をみている

が、早稲田大学は三十五億円の基金を持っており、慶応大学もまた同様の豊富なファンダを用意していることに注目しなければならぬとされ、また、スポーツ面では各々が優秀な成績をあげることが全学の士気を高め、極めて良好なインパクトを与えることは自明の理で、従来とかく諸先輩の犠牲的奉仕に依存してきたことを今後は制度的に改めていきたいという、ある種の決意表明が行われた。

学長のお話の中で、「本学は私学の雄でありまして」と述べられたことに對し、小林進社会党代議士が、「私学の雄とはどこまでを呼称しておられるのか?」というややいじわるな質問もあって会場を緊張させる一幕があった。川添学長は、さすがにサラリと「その範囲はユウに言いがたいところだ」と答弁され、満場笑いのうちに議事進行となった。

募金委員側からの発言では大勢はやむをえない心組みに思えたが、本部からの事前連絡が十分でなかったため募集要請を受けた地元学員から質問をもらって当惑した話や、支部ごとの目標が明示されていないことへの不安等が次々に発表されていた。風間幹事長も、募金活動活性化のため委員を増やすことや、冠大会の開設などについて意見を開

陳していたが、実は昨年春、全国十九万の学員に趣意書が發送されており、百周年時に比し、申込人数、金額とも五倍のスピードで好調裏に推移しているとの話もあった。本部では、暫く個人寄附の伸び具合を見て、大口寄附を期待できる法人募金に切り替えていく考えのようである。ただ、法人募金は、三年間の制約があり、今回の募金期間平成元年十一月から平成六年十一月までの五年の間で、どの辺に三年間の大口募金を收受するかが、大きな成否の鍵を握っているように思えた。

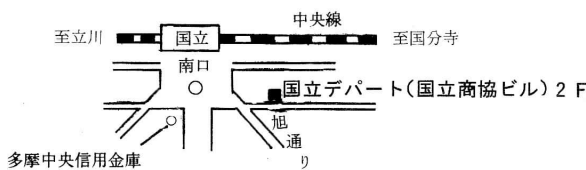
さて、わが国立支部は、百周年記念募金の際、見事、三〇〇万円を突破する三三五万の成果をあげてお互い大喜びし合った次第であるが、今回どのように取り組んでいくかはまだ充分検討されていない。ただ、はっきり言えるのは、二世紀の中大像をみんなで納得し、より立派なものに仕上げていくことである。我々の青春のキャンパスは、中大において他にはないことを強く自覚され、更に、結束を固め新たなエールを送ろうではないか。

総会のご案内

下記により第13回定時総会を開催いたします。万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さるようご案内申し上げます。なお、会場等の都合上、同封のハガキを5月21日(月)までに必ずご返送方よろしくお願いたします。

記

- 1. 日時 5月27日(日)午後4時までにご参集のこと
- 2. 場所 国立デパート2階(国立商協ビル)
- 3. 懇親会費 3,000円当日ご持参下さい。





母校とは

ひたすら懐かしいものだが

タイムスリップ20年

昭和43、44年度卒業生卒業式に参加して

中央大学卒業生会 国文学部

幹事長 風間 俊範

平成二年三月二十五日は、二十周年振りの卒業式を挙げる

感謝の一日でした。

二十周年振りの卒業式を挙げる。全員を連れて、ピクニック気分

で大学へ行くのは、初めてなので子供達は、大ハシヤギ



よみがえる卒業式

タイムスリップ20年 昭和43、44年度卒業生卒業式式場

風間さんご家族

しいものだ”と云う言葉で、二十周年振りの卒業式の意義について話された。

母校大好き人間の私にとっ手をした。また、当時の学長であられた戸田教授の「学園紛争のわだかまりが、今消えた」との話に、ノンポリであった私には、あの紛争の後遺症がまだ残っていたのかと驚いた。

卒業生代表の日本テレビアナウンサー吉田氏は、「天下晴れて卒業した。もうひとがんばりしよう」と声高だかに気持よく話した。

その通りだと思った。式終了後、祝賀会には、私にとつて卒業以来、はじめて会った旧友や、ゼミの悪友にも会うことができて夢のよう

だった。母校とは…… ひたすら懐かしいものだ。もうひとがんばりしよう。中央大学 バンザイ!

20年前の出来事

毎日新聞社刊 「一億人の昭和史」より

昭和43年(1968年)

- 6. 17 東大安田講堂に機動隊導入
 - 6. 26 小笠原諸島正式に日本復帰
 - 7. 1 郵便番号制スタート
 - 7. 4 警察庁 大学紛争校54校全体の10%と発表
 - 10. 13 第19回オリンピック(メキシコシチー)開幕
 - 10. 17 ノーベル文学賞 川端康成が受賞
 - 10. 21 国際反戦デー 反日共系全学連 新宿駅占拠 騒乱罪適用
 - 12. 10 東京府中市中で3億円事件
- [流行語] 昭和元禄、ハレンチ、ノンポリ、ハブニング、大平ムード

昭和44年(1969年)

- 1. 18 東大に機動隊導入
- 1. 20 政府 東大入試中止を決定
- 6. 12 初の原子力船「むつ」進水
- 7. 20 アポロ11号 月面着陸
- 12. 25 警察庁「本年中の紛争大学数159 高校数102」と発表

昭和45年(1970年)

- 3. 14 日本万国博覧会大阪で開幕
 - 3. 31 八幡・富士両製鉄合併 新日本製鉄 正式に発足
 - 3. 31 赤軍派 日航機「よど号」をハイジャック
- [流行語] エリ、エリ、エリ、ニアロメ

生き甲斐と悔い

久保田 利雄 (昭和31年卒)

人が生きる。たった一度しかない一人の人生は、一日一日と時を刻み乍らやがて人生を全うして一生を閉じる。

では、人生を全うするとはどういう事であろうか。人により十才で閉じる人も、又九十才まで長らえて閉じる人も居る。

或る人が、十才で亡くなる命には、それなりに全うしているとも言える。私は思う特別に悪い親、環境に生を得ない限り、誰でも、青年期位までは皆、一生懸命に生きている。

そして、彼等の心は暖かく、人、物事への思いやりの心も充分持っている。しかし乍ら今日の社会を見るに余りにもその親、社会、大人達はこれを無惨に踏みつけて、彼等の生きる姿をキズだらけにして

いるケースが屢々見受けられて本当に悲しい。本来の姿である限り、例えその人が十才で閉じたとしても一生懸命に生きて真の暖かい環境、社会に生きたら、

そうでない悪い親、社会等の環境のもとで一生懸命にもなれず、他の事等思いやる心の余裕すらも持たず、只々苦し

み乍ら生き長らえるより遙かに生きた甲斐もあり、悔い等

もないかも知れない。

人は正に〇才から十才位までの間にその人の基礎は造られる。そして、その後如何に良き親の生き態、環境、社会等の影響を受けて思春期を迎え青年期を経て立派に独立した人間になり得るかである。

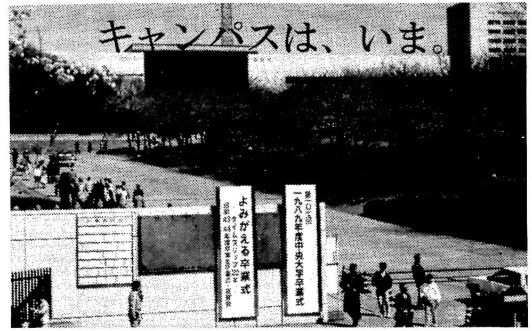
今日の社会、環境は決して良き姿とは言えない。先づ良い政治、真実の政治政治家を選びたい。そして真実良心のマスコミと、人と環境(地域社会から世界地球に至るまで)を心から思いやる社会的リーダーを育てたい。

青年期から成年期そして熟年期に、社会的知識恵がだんだん付くにつれて、その欲望だけがどんどん進み、金と享楽だけを追いかける大人、こんな社会を作った責任は一体何んだらうか。

兎に角悲しい。これではとても生きた甲斐等持てそうもなく、こんな事に憂身をやつし只々生き長らえたとしても果して真の我を顧みた時、たった一回の人生、悔い等はないものだらうか。

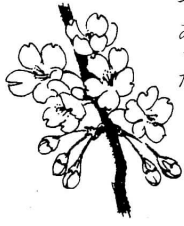
喜怒哀楽、喜びと怒りとそして哀しみもあってこそ楽しい。しかし、生き甲斐のある生き方とは、そこに人の可き姿を求め、故に怒りもそして哀しみもあってこそと思うのだが

…… 白門会の皆様、共に頑張ってください。意義を求めて生きましよう。



90中大の合格者 桐蔭学園がトップ

今年の私大入試は、全体的に「文高理低」の学部志望が続き、大学別で志願者の増加が大きかったのは、関東では亜細亜大、慶応大、上智大、中央大また、関西では、立命館大、関西大などが目立った。中央大学の合格者高校別は、左記の通り。



①桐蔭学園(神奈川県)145 ②厚木(神奈川県)76 ③希望ヶ丘(神奈川県)72 地元の国立高校は62名で7位、桐朋は34名の合格者であった。

「ねじり鉢巻君」歓迎！
大学では、四月十三日(木)に本年度入学者を歓迎し、「ねじり鉢巻君合格パーティ」を開いた。大学では、受験生を「ねじり鉢巻君」と呼び、職員が、学習のアドバイスや激励の手紙を送り交流を続けた。

第六十六回 東京箱根駅伝 復路初優勝も総合四位

第六十六回東京箱根往復大学駅伝は、一月二・三日の両日に行われ、中大は、復路初Vを果したが、総合で四位となった。優勝は、大東大。往復路とも好天に恵まれ、沿道の人は、76万人。有望新人も相次いで入学してきているので、来年は、大いに期待出来るものと思われる。

九〇年度入学式は、希望に胸をふくらました新入生で、法・経済・商・文各学部は、四月五日(木)多摩校舎で、また理工学部は、四月六日(金)理工学部校舎で、それぞれ一部・二部合同で行われた。

なお、新入生歓迎文化祭は五月十九日(土)二十日(日)に、また、大学祭は、十一月一日(木)四日(日)に予定されている。

落語とカラオケで 盛り上げた新年会

平成二年が静かに明けた一月二十日(土)、国立支部恒例の新年会が、富士見通り「信濃路」で開催された。例年よりも四度も低い冬空であったが会場には、三十名が出席。

午後五時すぎ、風間(俊幹)事務長から「平成二年度の定時総会を五月二十七日(日)、商協ホールで開きたい」との発表後、二宮厚生部長の司会進行で始められた。

能味副支部長の開会の辞につづき、村田支部長の挨拶、次いで、ご来賓の方々のお祝辞をいただき、井上市議の幹杯の音頭で賑やかな宴は始まった。

った。

国立支部の準会員で落語家の三遊亭竜楽氏が、郷里群馬の名酒「満寿泉」を持参され更に、艶っぽい江戸小咄を特別に披露され会場は爆笑と盛大な拍手を惜しまなかった。宴たけなわになるとカラオケも始まり、益々会場は盛り上がったが、料理も尽きた夜九時近く、校歌合唱のうち、山崎副支部長の閉会の言葉と万歳三唱でお開きとなった。



お知らせ

(結婚)

菊池 茂さん(押立神社宮司・谷保天満宮権禰宜)は、宮田斎子(いつこ)さんと、五月二十二日(火)正午から奉務神社の谷保天満宮で挙式されます。

披露は、同日午後三時から大國魂神社結婚式場で、また引続き、午後七時から、三遊亭竜楽氏の司会で、仲間うちの披露パーティを行います。

(転居)

幹事長 風間俊範さんは、左記へ転居されました。
〒192 八王子市中野上町 一丁目12番17号
☎0426(27)7612

落語家B「竜楽の会」をきいて

「竜楽の会」が、四月二日(月)錦糸町西武ザ・プライム六階スタジオ錦糸町で、午後六時三十分開演した。ご存じ三遊亭竜楽氏は、中央大学のOBです。

今回で、十五回目を数え、竜楽新古典主義「上司なんて怖くない」という仰々しい出し物で登場した。高座は進み、中入り前に、竜楽リサーチの演目で、ゲストにアップル法律事務所代表の諸永芳春氏を迎え、

「セクシャルハラスメントの現在」をテーマに対談し、日常、職場や通勤途中で問題になりそうなことを面白く取り上げ啓蒙した。

中入り後の大喜利のあと竜楽氏の「淀五郎」の口演となる。しっとりとした語り口で、噺は、四代目市川団蔵の座頭で「仮名手本忠臣蔵」の狂言が決まったのが、判官の役者が倒れたので、相中役者の沢村淀五郎を抜擢した。団蔵は、座頭

だけに由良之助と師直の二役を演じます。忠臣蔵四段目は、一番の見せ場ですが判官切腹の場で、判官役の淀五郎と、由良之助の団蔵とうまくゆかず、団蔵から淀五郎はいやみを言われ、淀五郎は三日目遂に座頭を殺し自分も舞台上で本当に切腹しようと覚悟して芝居をする、由良之助の団蔵も一晩にいい役者になったと感じ入って芝居をする、断です。私も、竜楽氏に「ウーン、待ちかねた……」と思いつつ、座を立ちました。

平成2年度 国立白門会予算案

自平成2年4月1日
至平成3年3月31日

平成元年度 国立白門会決算書

自平成元年4月1日
至平成2年3月31日

	科 目	摘 要	金 額
収 入 の 部	年会費	2,000×100名	200,000
	学員会交付金	15,000×2名	30,000
	総会費	3,000×30名	90,000
	寄付	諸行事寄付 その他	120,000
	特別収入	市民祭参加バザー収入	50,000
	広告料収入	白門会ニュース	20,000
	前期繰越		144,668
	合 計		654,668
支 出 の 部	印刷費	白門会ニュース(年2回)	100,000
	通信費	会員連絡 他	80,000
	会議費	役員会 他	30,000
	総会費		200,000
	交際費	他支部総会祝金 他	80,000
	事務用品費		5,000
	親睦行事費	徴収会費不足分補助	40,000
	雑費		50,000
	予備費		69,668
		合 計	

収入の部			支出の部		
科 目	決算	予算	科 目	決算	予算
年会費	162,000	200,000	印刷費	182,700	220,000
学員会交付金	15,000	30,000	会議費	28,259	50,000
総会費	78,000	90,000	通信費	140,888	80,000
寄付、祝金	138,000	120,000	総会費	178,736	200,000
親睦行事会費	200,000	0	交際費	55,206	80,000
特別収入	49,113	60,000	事務用品費	3,269	10,000
広告料収入	0	40,000	親睦行事費	228,652	40,000
特別行事基金	1,085,000	0	雑費	30,856	50,000
預金利息	547	0	特別行事費	936,720	0
前期繰越	202,294	202,294	予備費	0	12,294
			次期繰越金	144,668	
合 計	1,929,954	742,294	合 計	1,929,954	742,294

会 計 堀田 勲 ㊟
会計監査 宍戸 勇之 ㊟

平成元年度活動報告

厚生部

- 一、親睦会 六月十七日(日) 鹿島、鹿取神宮、潮来十二橋めぐり
- 二、第五回ゴルフコンペ 十月二十九日(土)相模湖C・C
- 三、新年会 平成二年一月二十日(土) 割烹「信濃路」

事業部

- 一、第十三回 四月九日(日) くにたちサクラフェスティバルに参加。バザー出店 谷保第三公園にて 実行委員として、協力参加
- 二、第二十回 十一月五日(日) くにたち秋の市民まつりに参加。法律、税務、不動産の無料相談。日常用品のバザー。準備段階から積極的に協力参加。

組織部

- 一、学員の把握
- 二、規約の改正
- 三、会員名簿の作成

広報部

- 一、国立白門会ニュース第九号、第二十号の発行
- 二、親睦会等の記事取材
- 三、学員時報への投稿

平成二年度活動予定

厚生部

- 一、春の旅行会 六月九日(土)
- 二、納涼会 七月十四日(土)
- 三、ゴルフコンペ 十月十八日(日)
- 四、秋の旅行会 十月二十七日(土)
- 五、囲碁大会 十一月十日(土)
- 六、新年会 平成三年一月十九日(土)

事業部

- 一、あれこれ考える会
- 二、第二十一回市民まつりへ参加。法律、税務、不動産の無料相談。バザー出店
- 三、第十四回くにたちサクラフェスティバルへ参加。バザー出店

組織部

- 一、組織強化
- 二、学員の把握
- 三、会員名簿の補充
- 四、学員活性化のための基礎資料の作成

広報部

- 一、国立白門会ニュース第二十一号、第二十二号の発行
- 二、大学の行事、親睦会等の記事取材
- 三、学員時報への投稿
- 四、企画をシリーズ化
- 五、会員からの投稿を推進



くにたち
サクラフェスティバル

荒天でバザー中止す

恒例のくにたちサクラフェスティバルは、四月八日(日)谷保第三公園で行われる予定でしたが、午前八時集合の際はまるで嵐を思わせる程の突風で、天幕の骨組みと足場を補強する段階で様子待ちをしていましたが、そのうち、雨も強くなり、天幕も吹きとばされそうな状態となり、止むなしく出店を見合わせました。準備にお手伝下さった会員の皆さん、お疲れ様でした。今年も、例年になく暖冬で第三公園の桜は、満開をとくに過ぎ、春を惜しむかのよう

に春嵐に散り急いでいるようでした。

会費納入のお願い

年会費は白門会ニュースや名簿作成などの財源ですので、同封の郵便振替用紙で納入をお願いします。また、総会当日ご持参して下さい結構です。

年会費 2,000円